

菅原ゼミナール 2005 年 「今後の課題と目標」

このレポートは、菅原ゼミナール生(3年生、2年生)が、各自でこれまでを振り返って、今後の課題と目標について述べたものである。これを基にして、2006年、ゼミナール生がより一層切磋琢磨し、そして大きく飛躍することを願っています。

Think different, act different, and be different.

Take new steps !

ここから 3 年生

「今後の課題と目標」 ~これまでのゼミを振り返って~

1、「今後の課題」

- ・ゼミ全体の課題
- ・個人の課題

2、「今後の目標」

- ・ゼミ全体の目標
- ・個人の目標

1、「今後の課題」

・ゼミ全体の課題

この課題はかなり明確である。それは「ゼミ内での個々人のやる気の温度差が大きいことだ。秋セメスターから二年生を交えて、新たなゼミの活動が始まり約二ヶ月、ゼミ長としての立場から全体を見ていて気づいたことは、自発的な人と受動的な人(やる気がある人、やる気がない人)がはっきり別れていることだ。これは、私たち三年生の中でもはっきり別れている。別に受動的だからだめだというわけではないが、与えられた課題すらやってこないのは、先生にも他のゼミ生にも迷惑極まりない。一番損をするのは自分自身であるし、先生から与えられたせっかくのチャンスを逃す結果となってしまう。このチャンスを最大限に生かすためには、ゼミ全体が一つになり、同じ目標に向かって意欲的に活動していくことがベストだと考える。

・個人の課題

自分が今、最も重要視している課題は、「プレゼン、ディスカッション時において、正当

性のある意見を述べる」ことである。もっと自分の意見に具体性を持たせ、相手に自分の考えをはっきりわかってもらいたい、と最近特に思う。社会人になったら特にこの課題は重要になってくるので、大学生生活残りわずかだが、大学在学中にこの課題を必ずクリアしてみせる。

2、「今後の目標」

・ゼミ全体の目標

ゼミ全体での課題でも述べたが、今後のゼミの目標は、「ゼミ全体が一つになり、同じ目標に向かって意欲的に活動していくこと」である。ゼミ全体が一つになるための要素を述べるなら、次の三つの要点に絞ることができる。

報告・連絡・相談の徹底

ゼミ内でのコミュニケーションの向上(二年生、三年生の垣根を越えたコミュニケーション)

個々人のゼミに対する価値観の向上(受動的姿勢から自発的姿勢へ変換)

この三つの要素を結合するためには、ゼミ全体における「共通の目標設定」が必要不可欠であると考えられる。例えば、毎月ごとにゼミで話し合いを行い、ゼミ全体の共通目標を設定する(ex、一月の目標:TOEIC500点以上をとる)。毎月ごとに目標を設定することで刺激も生まれ、個々人のやる気も出てくるのではないかと考えている。

・個人の目標

先ほど述べた課題に対し、すでに個人目標は設定済みで今は実行段階に入っている。その目標とは、「知識を向上させ、創造力をより豊かにする」ことである。具体的に現段階では、経済学を軸に勉学に励んでいる。これまで経済に関することに対しては、全くといっていいほど無関心で、話が複雑だからといっていつも後回しにしていた。しかし、自分の卒論の研究内容と経済学はより深い関係にあるので、いつまでも後回しにすることはできない。そう思ったのがきっかけで、今では経済学に関する本を毎日読む習慣を身につけ、ネットを駆使して時事的な情報を毎日チェックし、分析するよう常日頃心がけている。

次なる私の目標は、ここで身につけた知識を自分の意見に変えて、自信を持って発言することである。常に目標を設定し、ステップアップしていくことで自分自身をもっと大きな存在にしていきたいと思っている。

「今後の課題と目標」

個人

「課題」吸収と実践 「目標」状況に応じた明確な目標の設定
課題

私が一年間のゼミを振り返って菅原先生から与えられる課題をやっていて新しい知識を多く吸収できた、一番衝撃を受けたのは速聴トレーニングの内容の成功に必要な 3 つの教えです。私は 1、態度 2、視点 3、明確な目標と解釈しました。特に明確な目標は大切で、私はアルバイトで今、新人に仕事を教える機会に恵まれています、教える仕事は多いのですが、今日の君の目標はこれだよ、と指示してあげることにより伝えたいことを相手に漠然としてではなく明確に伝えることができ、相手も吸収が早く、ゼミで吸収したことを実践することにより教え方がうまくなった。

目標

ゼミではディスカッションや発表をしてきました、ディスカッションの時に自分の考えがあるのに発表できなかつたり、発表の時にただ考えてきたことを言うだけだったり、これらの反省点を今後克服するために、私は状況に応じて明確な目標を設定することをしていきます。ディスカッションの時は自分の意見があるのに言えない時があるので手をあげるといふ明確な目標を作り克服していきます。発表の時は姿勢が悪い等の反省点を明確な目標として意識することにより克服していきます。今後のゼミの時は明確な目標はなんなのかを意識していきます。

全体

「課題と目標」協力が生むゼミの活性化

私が思う問題点は 3 年生同士のまとまりの欠如がある。この問題点はゼミに入った頃からあったのですが、今の 2 年生のまとまりの良さを見てると改めて思い知らされる。2 年生は北海道合宿以前、以後では大きな変化を遂げた、今の 2 年生のまとまりによってゼミは活性化していると思う、3 年生のまとまりのない雰囲気のあるゼミを 2 年生は短期間の間に活性化したゼミの雰囲気に変えた。3 年生は 2 年生の刺激を受けて今まで、なあなあだったことに気づかされた、個別に相手の直してほしい点は伝えていきます。みんな除ゼミという可能性があります、でもせっかくゼミを通して出会ったのだから、最後まで今のメンバーでゼミを卒業出来るように怒ったり、励ましたりしながらゼミをしていきます。3 年生にはゼミの雰囲気を良くすることは出来なかったですが、2 年生が活気のあるゼミに変えてくれたのでその雰囲気の中で 2 年生と 3 年生がまとまりゼミ全体が活気のあるものになることが今後のゼミの理想的な形だと私は思います。出席率の悪さや課題の未提出等の問題点がありますが、ゼミの活性化が問題点を減らしていくものだと思います。

今後の課題と目標 ~これまでのゼミを振り返って~

菅原ゼミでの一年半を振り返って、個人と全体という二つの視点から今後の課題と目標を考える。

まず、個人の課題である。このゼミに入って 1 番学んだことは、「積極性」である。ゼミに入るまでの私は、受身体質で自ら積極的に行動することはほとんどなかった。しかし、

このゼミに入って例を挙げれば、プレゼンやディスカッションで自分をアピールすることを学んだのである。もちろん、まだ感情的な意見が多く、論理的に物事を捉えるといったことがこれからの個人の課題になる。また、3ヶ月前からは非常に優秀な後輩たちも入ってきたので、自分にとっても良い刺激になっている。これからも同じゼミの仲間として、またライバルとして切磋琢磨してお互い高めあっていきたいと思っている。

個人としての目標は卒論である。私が書こうとしているテーマは、資料が乏しく、完成に至るまで非常に険しい道になると考える。しかし、私は、菅原ゼミのモットーでもある『Think different, act different, be different.』を実践したいので最後まであきらめないで満足のできるものを作りたいと考えている。

次にゼミ全体の目標である。これに関しては、特に私を含める5人の3年生のサポートの向上である。どういうことか単刀直入に言うならば、一年半も経ってまだゼミ長の三宅君に依存しきっている点である。例を挙げると、11月の北海道合宿の大学との交流会である。ここで、三宅君はゼミ紹介のプレゼンをしたのだが、私は自分の不甲斐なさをつくづく悔やんだ。なぜなら、私はこのプレゼンの作成に協力しないどころか、自分の意見を何一つ言わなかったからである。本来ゼミ紹介といえば、皆がこれまでやってきたことを話し合っ、その上で代表がプレゼンするのが正しいと考える。それを話し合いもせず、完全に三宅君に任せっぱなしにしてしまったのだ。映画やドラマでも優れた主役だけがいてもそれを盛り上げる優れた脇役がいなければ優れた作品にならないと考える。そのためには、ゼミ以外ではまだ1回も3年全員揃ったことがないので、これからは3年のみの話し合いも積極的に行っていく必要があると考える。

最後に来年で最終学年を迎えるにあたって、4月からはまた後輩も入ってくるので、今まで以上に先輩としての自覚を強く意識して、菅原ゼミでの最後の貴重な1年間を有意義に過ごしていきたいと考える。

「2006年のゼミの課題と目標」

今までのゼミを振り返ってみると私は全てみんなにまかせっきりで、誰かに言われなければ何もしなかった。仲のよい三宅君、高野君に課題、イントラネット、卒論のことは言われなければほんとに何もしなかった。1月22日に自分の卒論発表のとき、何もしてなくて先生に帰らされたとき、本当に反省した、また、私たちの卒論発表のためにパソコンを用意してもらっていたというのにも本当に申し訳なさで体の中がいっぱいになった。先生に怒られたのは初めてなので、そこまで先生が真剣になっていたと思うと、かなり期待を裏切ってしまったかのように思える。

今後のゼミ全体の課題は、誰にも言われなくてもきちんと課題、卒論に取り組むことである。そして、目標はきちんと先生の課題をこなす、先生の「今やっている課題は話がうまく繋がっていないと思うけど、いつか繋がる時がくるから」という言葉を背に、その繋がるときが、菅原ゼミナールに入っていてよかったという意味になるよう今後就職活動とともにがんばって取り組んでいきたい。

個人的に私はこのゼミに入っていてとてもよかったと思っている。なぜなら、人前に立ってプレゼンテーションすること、グループディスカッションで人の意見を聞いて発言すること、「あの、その、とか、などは使わないこと」、すべてが就職活動、社会に出るためには必要なことであるからである。人前に立ってプレゼンテーションすること、グループディスカッションを今のうちに鍛えておけば採用試験にかなり自信が持てるので、また、「あの、その、とか、など」は使わないで明確に言うところも面接、エントリーシート、自己PRにはかなり役立つと思うからである。実際にサンワホームにエントリーしたときに、自己PRを書く欄があり、「私の強みは二つあります」と最初に書き、明確に強みを書いてサンワホームに送信したら、見事特別に選考してもらい、特別に選考していただいた方々にのみの特別限定説明会に参加させてもらうことができた。

このとき、先生の教えがとても大事であると痛感したので、今後は気合いでがんばり、自分をレベルアップさせるためにゼミ活動を取り組んでいくことが私の課題で、目標はゼミで鍛え上げた能力を存分に発揮して就職内定を目指していきたい。

今後の課題と目標について

ゼミ全体から見て、一番大きいな問題点は個人と個人の差が大きい。やる気ある人とやる気ない人、学校へちゃんと来ている人とちゃんと来てない人、宿題をちゃんとやる人とちゃんとやってない人、積極的に発言する人と積極的ではない人、全体が散乱、不一致に見える。

そのためゼミ全体の視点から見た今後の課題は、その問題点を改善することであり、目標としては改善を通してゼミ全体が一致で心一つにすることが大事だと思う。

人はそれぞれの生活環境、習慣、教育、基礎そしてやる気と努力などによって人と人の間にはそれぞれの「距離」が出て来る。基礎が違う人々が同じ教育と勉強をするとしても知識に対する認識と理解、吸収が違うと思う。日本語検定試験や英語の検定試験も例え基礎が違う人々が同じ授業を受けると、授業の内容は成績がいい学生に合わせた場合、基礎がしっかりしている学生にはとても訳に立つ、しかし基礎が低い学生に対してはそれを理解するため、身につくためには時間がかかる。その逆、成績があまりよくない学生に合わせて授業を受けると、成績がいい学生のやる気を傷つける場合がある。そのためには個人個人のレベルによって勉強することが大事だと思う。一番いいのは自分に合う勉強方法を見つけて自分のレベルに合う勉強をすること。一時期の勉強を通してみんなで同じ試験を受けることによって自分のレベルをチェックする。自分と他人の「距離」を知って勉強することによって「最短距離」を作ること。

やる気ない人、学校へちゃんと来てない人、宿題をちゃんとやってない人の存在はゼミ全体に不良の影響を受ける。「自分の勉強は自分です、自分で頑張る」とよく言うけど、人はたびたび周りの影響でやる気がなくなったりする場合も少なくない、そのためやる気がない人、学校へちゃんと来てない人、宿題をちゃんとやってない人の不在が必要。

積極的な人はいつも積極的、ではない人はいつも沈黙。そのため積極的ではない人の発言機会を作ることが大事だと思う。指導意識が強い人にいつも指導チャンスを与えること

は積極的ではない人はいつまでもチャンスがないままになる。積極的ではない人にチャンスを与えることによって、その積極性を生み出して、もっとも積極性が高い人は人を教えることによって自分の指導意識を高まる。

一番大事なのは、ゼミの一致性と個人個人の距離を縮めることではないかと思う。

個人の視点から見ると自分にたいする問題点は1、把握している基礎知識がしっかりしてない、2、英語の基礎がない、3、自信がない

今後の課題と目標はその問題点を克服することであり、克服するためには1、本を沢山読む、2、毎日英語の勉強をする。3、他人との距離を感じ、あきらめずに頑張ること。

ここから2年生

「2005年から2006年へ」

個人の目標と課題

今年の10月に私は菅原ゼミに入った。この時から私の生活は180度変わった。今までの生活は、バイトと遊びが生活の支柱にあった。大学はというと、いかにして簡単に単位が取れるかということしか考えていなかった。しかし、ゼミに入ったことにより、今まで考えていなかったことばかり考えるようになった。それは三つある。

一つ目は、経済のこと。経済をゼミで勉強するうちに社会の変化を気にするようになった。昨日のニュースで個人物価が2年ぶりに上昇したと言っていた。デフレからインフレに変わっていく様が見えるようになり経済のおもしろみが分かってきた。野村證券のバーチャル株取引をやっており、為替の仕組みや為替で儲ける方法も若干分かり、将来役にたつ知識が得られたと思う。

二つ目は、相手に自分の考えを伝えることの難しさ。ディスカッションを行ううえで、このことを肌で感じるができる。相手に自分の考えを伝えるためには、書いて伝えるか言葉で伝えるしかない。短く、そして分かりやすく伝えなければならない。私が一番伝える時に心がけているのは具体例を用いることである。具体例を用いることにより、相手にもビジョンが見え関心を向けさせやすい。考えを伝えることの難しさが分かった私は相手に自分の考えを伝える際に具体例を用いる。

三つ目は、時間を大切にしなければならないこと。課題が出ると一週間の猶予があるなか、私は一週間かけて無駄に長く課題に取り組んでしまった。しかも内容も決して良いとは言えない。だから、毎週自分のための時間が無いと嘆き、本や新聞を読む時間を削ってまで課題に取り組んでいた。この三つ目の時間を大切にしなければならないというのは2005年にはできなかったことである。だから2006年の課題にしたいと思う。翌年に繰り越された課題を来年では果たしたい。課題には迅速に取り掛かり、それでいて納得の出来る出来のものに仕上げる。一週間の猶予を余裕に変えていきたい。

ゼミの目標と課題

菅原ゼミはとてもいい形になってきたと思う。皆のやる気が顕著に見られ、与えられた仕事をしっかりこなす。そして、頼れるゼミ長、副ゼミ長がゼミを引っ張ってくれる。

ゼミの今後の課題は周りの意見を聞き入れることである。ゼミでよく聞くことができるのは、ゼミ生に対しての陰口である。あいつはどうだとか、あの人はどうだとか。このゼミは女子高生の溜まり場ではないのかと目を疑ってしまう。私はこの雰囲気嫌いである。ゼミは個性の強い集団なので相手の考えが許せないという場面が出て来るのは絶対にあること。それを口に出してということではなく、心の中にしまい、その考えはもしかしたら正しいのではないかと自問自答することが必要である。皆考えが違うのは当たり前であり、それが集団行動を成り立たせる。相手を貶すことにより集団行動の輪を乱すことは、集団行動をする価値がなくなる。

このことは皆の前で言うことは私の立場を危うくするもので言いたくない。だから、陰口を言われた際には、それは違うのではないかと言い、徐々に陰口を減らすよう改善していきたい。行く行くは、何事も相手に向かって堂々と物事を言える集団を作っていきたい。

冒頭に申したように私の生活は菅原ゼミに入ったことにより変わった。それはいい風に。しかし、今もゼミの課題、授業の課題、バイトとやることがたくさんあり負けそうになっている。でも、絶対に負けたくない。ゼミは私を変えてくれた、これからも変えてくれる。このような変化は自分の中だけでは決して起こらないことである。ずっと菅原ゼミの一員でありたい。

「今後のゼミの課題と目標について」

個人の課題と目標について

私個人の課題と目標を見出すには、何が必要か？それには、まず何故ゼミに、入部したかということ振り返って考える必要がある。そもそも、私がこの大学の入学を志望した理由というのは、この学部には環境福祉コースという魅力的な学習コースがあるという単純な意義決めたのであった。しかしながら、通い始めて1年過ぎたうちから、あるジレンマが、私の中で芽生えてきた。果たして、ただ座って先生の講義だけを聞いているだけで良いのだろうか？私は、このまま大学生活を送るのは、苦痛であり無意味であると感じてきた。もちろん知識という教育がもつもっとも重要な要素は認識しているつもりだ。

問題は、この学生時代に習得した知識が、社会という枠組みの中でどのように精通するかということである。つまり、社会経験を通じて学生時代習得した技能ないし知識が、どのように活用されるかを考えることが必要になる。これは、大学時代に身につけなければならない。ゼミは、そのことについて学ぶ場であると確信している。話が長くなったが、私がゼミに入りたいと思った理由というのは、自分を磨き社会に出て、活躍する人間にな

るためである。それには、何が必要か？その答えを菅原ゼミで見つけた。

ゼミの紹介書もらった時、菅原ゼミのマニフェストには以下のことが書いてあった。インターネットをフルに使い、英語をフルに使ってゼミを行います。この高いレベルを求めるところに、魅力を感じた。このゼミなら自分を磨くことができると確信した。実際に入ってみて、毎日課題がでて、次々と新しいことに挑戦し、そして、このゼミは海外研修や企業訪問、NGO 訪問と他のゼミにはない特色を備えている。予想通りのゼミだった。しかし、この半年間を過ぎて考えてみると、目標が見えないままただ課題をこなしてきたように感じている。これは、90 分間先生の話の聞いているのと同じだ。今後の課題は、このゼミで自分が何に取り組みたいか、はっきりさせることだ。その目標として、まず人前で自分の意見を言えるようになること。最終的な目標としては、英語でプレゼンするまでに至りたいと思う。他にも、やりたいことはあるが全て行うのは無理だろう。私は、一つだけでもクリアできればそれでいいと思っている。目標を設定したら、達成するまで努力する。その中で、自分でこのゼミに参加する意義を見出せたら良いと思う。

ゼミ全体の課題と目標

まず改善点として上げられるのは、効率性が悪いということだ。このゼミは、課題が多く時間がかかるのは、仕方がないことだと思う。それでも、効率性を上げる方法があると思う。例えば、ゼミ長や副ゼミ長だけに同行を任せるのではなく、自分達も参加しているという意識を持つことが大切ではないか。具体的には、ゼミの反省点について、述べているときに、先生が教室に現れるまでは、ただだらと時間を過ごしていた。もしこの時点で論点が終了し、ゼミが時間 20 分早く終了したら。その時間有意義に過ごせる。我々は、未来のことを創造し代えることのできる能力をもっている。それを使わないと損することになる。話が飛ぶが、日本が真珠湾攻撃で、その成功に浮かれている時に、アメリカは、すでに戦争後の世界像を考えていた。この創造力の差が、戦後の日米の格差を生んだ一つの要因といえる。つまり、常に頭を使い、次ぎのことについて創造することがいかに大切かということを見せてくれている。これは、ゼミの活動でも言えることではないか。

もう一つは、みんなが、ゼミに参加している意義を考えてほしいということだ。これは、私も言えることだが、ただ 2 時間過ごすのはもったいない。参加するからには何か収穫をして返ったほうがいい。そうでは、ないと無駄に過ごしまう。そのためには、最終的な目標を作り、ゼミを卒業した時に何について学んだか人前で、発言できるまでにならないといけないと思う。

「この前のゼミで話し合ったことをまとめます」

ゼミに入ってよかった点

時間の有効活用

今までも電車など長い時間を有効に使うことはできたが、何かの待ち時間や 10 , 15

分といったコマ切れの時間を本やリスニングによって有効に使うことが、だんだんできるようになった

将来の展望

自分のことをプレゼンしたり金持ち父さんの本を読んだり、または先生の話聞くことによって、漠然としたまま整理しないうちの自分の人生、将来のことを具体的に考え、それに対する準備を少しずつでも始められるようになった

英語

強制的に TOEIC をやることによって、またそれを全員で受けることによって、お互いに切磋琢磨でき、その予習、復習を嫌でもやるようになった

反省点

積極性

まだ気まずくなりたくないとか衝突を避けたいと思う気持ちがあり、人が言ったことと違うことを思っても、何も言えずに終わらせてしまうことがある

話す力

まだ頭の中だけで考えて口に出さない癖があり、いざ思っていることを話そうとすると、何が原因なのか自分でも分からないが、うまく説明できなくなってしまうこと

自立

これは今の自分にとって、1 番の問題であると思う。何でも、自分が分からない分野になるとすぐ周りのできる人のところへ行って頼ってしまうこと

今後の目標

・ゼミ全体

今までは自分のことが精一杯で周りの人をよくみれていなかったと思うので、ゼミに来てなくて行き詰まってる人がいたらフォローし、逆に前を歩いている人たちには苦勞を集中させないために、ゼミ全体がまとまりやすくなるように、周りの人たちをつなげていく

・個人

まずは、反省点の で言ったことを確実に直せるようにしたい。人にすぐ聞く前に、自分 1 人で解決できるように努力をする。

「ゼミでこれからの改善点」

ゼミに入った時から知識が他の人よりも劣っていることがわかっていてもかかわらず、出された課題に対してのやる気が起きず、提出することができなかつたときがあった。これからは自分で調べて、先輩、友人に聞いて意味を理解していき最後には自分で理解できるようになることを個人目標としていきたいとします。全体でみても課題を出していない人はいるのでこれからは、自分も含め、全員で意識していきたいとします。

「今後の課題と目標について」

ゼミに入ってからこの半年間を振り返ると反省点だらけであった。この反省点を元に今後の課題と目標を述べたい。

今後の目標は3つある。1つ目は積極性が足りないので、どんどん積極的に行動したいということだ。例えば、北海道合宿での企業訪問では1度質問するだけで満足してしまっていた。これでは、まだ他人を頼ってしまっていることになる。自分の係りの活動のように、積極的に取り組みたい。

2つ目は、与えられた課題をただこなすのではなく、自分の意見をまとめたら、さらにそのことについて自分なりに調べるということだ。そうすることで自分の発言に説得力がでるし、自分の知識を増やせることに繋がるからである。3つ目はTOEICの試験でとりあえずは600点を取ることである。そのために単語、今までの試験の復習を行い、試験に慣れると共に、自分の弱点を見つけ出し、さらに勉強に反映させたいということである。

4月からは新たにゼミ生を受け入れる立場となるので、この3つの目標を達成し、良き手本になるように頑張っていきたい。

今後の課題と目標 ~ 今までの菅原ゼミナールを振り返って ~

菅原ゼミナールに入る前まで、私は大勢の前で発言する、発表することがとても苦手であった。しかし、菅原ゼミナールで積極的に行われるプレゼンやディスカッションを通して、人前で発言する、発表する力を得、自分の考えを持つこと、そして自分をアピールすることの大切さを学んだ。

もちろん学んだ点だけではなく、反省点もある。それは、先に述べたように自分の考えをしっかりと持ち、発言・発表する大切さをわかっているのだが、まだはっきりと表に出せないということだ。何がこれを邪魔しているのか考えると、恥ずかしさはないのだが「積極性」と、課題に対しての知識がないことの「恥」が取り除けない「勇気」だと感じた。

これらの学んだ点、反省点をふまえて今後の菅原ゼミナールでの自分の課題を考えると、やはり上記で述べた反省点を取り除くことだ。ゼミ内でのディスカッションが、私には持っていない人前での「勇気」を持っている人達だけで行われていて、私を含め人前での「勇気」をまだ兼ね備えていない人は、ただの聞き手役になっていると感じる。自分の中だけで考えるだけではそこから何も生まれず、メリットが何もない。この課題がクリアできれば、私自身今後ゼミがさらに快適になり、より良いものになる。

ゼミ全体の課題・目標としては、やはり皆が同じように感じていると思うが、今年菅原ゼミナールに入ゼミした2年生そして先輩である3年生全員が菅原ゼミナールを気

持ちよく卒業できることに尽きると思う。側から見ても厳しく、所属してもさらに厳しいと感じる菅原ゼミナールを卒業することが、社会人になってからの、そしてその後の人生の大きな大きな糧となっていくに違いない。

これからも、私を含めゼミ生全員が、知識的にも人間的にもステップアップできるよう努力を惜しまず、より良い菅原ゼミナールを築けるように、一人ひとりがチャレンジ精神を持つことが大切である。

課題と目標

1、ゼミ全体の課題と目標

自分に言えることだが、課題を出さない人や適当にやる人がいる。先生が言うとおり毎週課題をこなせば個人個人のレベルも上がると思うし、全員が真剣に課題に取り組んでくれば中身の濃いディスカッションができる。真剣に読んできた週のディスカッションは楽しいし、意見が飛び交って自分とは違う意見も取り込むことができる。みんなで支え合ってレベルアップしたい。

2、個人の課題と目標

上にも書いたが、課題をあまり積極的にできなかった。積極的にやらないと自分の力にならないし、ゼミのレベルを下げている。忙しいのはみんななのだからできなかった言い訳を並べるのではなく寝る時間を惜しんででも自分とゼミのためにも毎週課題をこなす。目標は、私の目から見て、ゼミ長は発言や行動から2年生のときやることをしっかりやってきたとわかる。遅いかもしれないが、やらなければならないことをこなし、ゼミ長のよう積極的にこなしていく。

「課題と目標」

課題

ゼミ全体として

ゼミ全体としては、個人の意識の向上と均衡を図りたい。

ゼミは全体行動なので、個人が単体で動くことは統率を図る上で、とても困難になりうる。しかし、個人に意識の違いが存在することは確かだ。この違いを「だらける」方に向けるのではなく、「行動」という方向に向けたい。

個人として

単位の問題がほとんどを占めた。

大学生活を送る上で計画的に単位をとることが出来なかった。人が変えるのではなく、自分が変えるという意識が足りなかった。

目標

ゼミ全体として

一人の脱落者を出さずに、新しく来るゼミ生にゼミのよさ、行動することの重要性を伝えたい。

個人として

大学の単位を計画性を持って取る。

10月31日までに小説を書き上げ、群像新人文学賞を取る。

「浮き彫りとなった私という人間性」

昨年のゼミで先輩達が「相手に伝える意識」というものの低さに驚いた。私は「相手に何かを伝えることの大切さ」というのを日々意識し、理解していた。そしてそれがいかに重要でその態度、言動により相手が不快に思ったり、感動したりすることも分かっていた。

しかし、ゼミの先輩達は私の中のビジョンとかけ離れていた。又、その態度を見て大きな壁があると感じていた。それは10月の合宿に行った当たりら私の心に大きなズレとなっていき。また、「他人を信用してはいけない」という私の根本的な考えを浮き彫りにしていた。

私は「他人を信用しない。人間は一人。情はいらない」というものを心に植えていた。周りの人からは「Aさんは、社交的で、人見知りしない、いい子」と言われていた。しかし、これは計算によって作られた偽の私である。他人に私という人物を信用させるため、自分を良く見せるため、一歩前に出るため、日本の大人にとって都合の良い子供を演じていることだった。全ては計算によって作られた私であった。

そんな私も年をとり、仕事で人々と触れ合うようになり、さらに多くの事を学んだ。その中でターニングポイントとなったのは「裏切りの世界」だった。そのときに感じたことは「人に情をかけても何もならない。日本人は汚い」ということだった。

他人のために努力したところで他人は私に精神的苦痛を与えるだけでメリットというメリットを支払ってくれなかった。それは大学1年の時に元彼に振られた時に気が付いた。

G i v e & T A K E これが成立しないなら意味がない。男も同じ、自分にメリットがないなら一緒にいても時間の無駄であり、浪費だ。自分の時間は限られている。自分の資

産収支は限られている。だから切り捨てる必要があるのだ。

そして、私はこの裏切りの世界を知った時、「他人が汚い」と思っていたが誰より汚かったのは他人ではなく私だった。それに気が付くのに私は長い年月がかかった。

大学に入り菅原先生と知り合ったことによって近いものを感じた。先生という人柄、新しいものを見出そうと考えているというものを直感で、「この人のゼミならきっと違うことが学べる！」と受け止めた。ゼミにはいったが、それは私にとって苦悩の日々の始まりだったとも言えよう。

ゼミというのは生徒で作るもの。それはわかっていたが機能していなかった。機能していたかもしれないが私の理想とかけ離れていたことが事実である。

「ゼミに行きたくない。時間の無駄」と考えるようになり、ゼミの日になると体調が崩れるという体の拒否反応が出てくるようになったのは合宿を終えてからだった。

ゼミで友達を作り将来自分達のビジョンについて語り日々前進していけるような事をしていてと考えていたが違っていったのだ。私は頭ではわかっていたが何もできないまま日々だけが過ぎていった。

もちろん私なりに色々考えた。辞めるか、継続か・・・しかし頭で考えているだけではまったくもって何も答えが出てこなかった。

走行している間12月に入り、Bさんにプレゼミに行こうと言われ、ついていった。

そこで見たものは私が今まで勘違いしていた「伝える意識とその姿勢」だった。同学年の子がプレゼミで下級生に「伝えていた」そして私にもその伝えたいモノが伝わってきたのだ。同学年の子の発表に私は恥ずかしさを覚えた。一生懸命相手に伝えようとし、一生懸命に準備をしている。「ゼミの先輩」というのが私の中の「ゼミ」というものになっていたが、それは違っていった。

ゼミというのは先輩後輩関係なく、皆で作っていくものであり、一人一人の意識によって違ってくるということが分かった。私は2000年にITのバブルがはじけたように、このゼミに大きな期待をかけすぎていたということが分かった。

ならばどうするか。この答えは簡単だった。「自分を変えればいい」他人が変わるのを待つのは時間がかかるが、自分を変えることが一番近い答えだと思った。

視点を変え、「自分だけすごい」という考えからの脱却。そして新しいものを作り上げていくことこそが自分にとってのこれからの目標であり課題だと考えた。

他人の良きところを見、足りない部分を皆で付け足す。これができるようになれば私は人間として大きく成長すると考えている。

それが実現できるようにしていきたい。気が付くのに時間がかかった。きっとこれを実現するのも時間がかかるかと思う。しかし、全ては自分次第だ。自分を生かすも殺すも。浮き彫りとなった私という人間性を変えていきたい。プレゼミで発表していた同学年の子たちのように。